

平成27年度 第2回総合教育会議議事録

日 時：平成27年9月2日（水） 午前10時00分～午前11時30分

場 所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井 利克、名張市教育委員会 福田 みゆき委員長、松尾 真由美委員、瀧永 善樹委員、山本 智子委員、上島 和久教育長

《事務局》企画財政部長 森岡、総合企画政策室長 山下、総合企画政策室 今村

教育委員会事務局次長 高嶋、教育総務室長 内匠、教育総務室副室長 福本

○市長あいさつ

おはようございます。委員の皆様方には、日頃から名張市教育の充実・発展のためにご尽瘁をいただいております。御礼を申し上げる次第でございます。

先般、学力テストの全国一斉の発表がありました。相当頑張っていたかと思っております。特に、中学校では、全国平均を上回るものがほとんどで、今日までのご尽力に敬意を表させていただきます。

ご案内の通り、地方創生の取組の大きな柱に据えておりますのが、教育であります。子ども・子育て、そして保育に繋ぎ、そして教育へ繋いでいく。名張で子育てをしたい、そういう思いに駆られるような環境を整えて参りたいと思っております。平成24年4月に子どもセンターを起ち上げ、その中に発達支援センターを設置し、27名の子どもが転入してきました。遠い所では浦安市からお越しになられており、サポート体制を切れ間なく充実していかなければならないと思っております。これから私も、教育分野の先頭に立って内閣府、それから文部科学省へも出向いていき、名張の今後の取組に対してモデル的な位置付けをいただき、実証し、お伝えをしていきたいと思っておりますので、ご協力方よろしくお願いたします。

本日は、報告事項が2本、協議事項が1本となっております。忌憚のないご意見をお出しいただければと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

それでは、事務局より説明をお願いします。

○報告事項

1. 名張市総合計画『新・理想郷プラン』基本構想(素案)について (資料1)

※企画財政部 総合企画政策室より資料説明

(議長)

説明は以上でございますが、ご意見・ご質問等いかがでしょうか。

(教育委員長)

18ページになりますが、第2節の3つの重点戦略、「元気創造プロジェクト」、「若者定住促進プロジェクト」、「生涯現役プロジェクト」は是非とも成功させていただきたいと思っております。やはり若者が元気で、子育てができて、そして年を重ねていく皆さんも生涯現役で、健康で生きがいを持っていく社会というのは、この名張を引っ張っていく、名張を元気にさせていくと思っております。

(議長)

これは今、地方創生の3本柱で、名張が発展していくための土台として、優先順位をつけて各分野の取組を5年計画で進めていく必要があると考えています。

「元気創造プロジェクト」の雇用創出では、名張は工業団地が完売しており、企業誘致が困難な状況にあります。閉校小学校に企業を誘致し、雇用を見出しています。旧長瀬小学校では約180人、旧滝之原小学校で約20人、旧錦生小学校では郷土資料館など色々な使われ方、また、旧国津小学校はジャングルメという企業で、現在、梱包だけですが、将来的には加工も計画しています。加えて、今ある地域資源をフル活用し、仕事や雇用を創出する取組を平成26年度から進めております。昨年度の目標が55名でしたが、医療・介護部門、清掃関係、畜産関係、サービス業など合わせて74名の雇用を生み出すことが出来ました。今後は、名張へ来て起業しようとする若者のサポートを、近大高専とも連携しながら、芽が出かけたところに肥料や水をあげるような体制が必要と考えています。

「若者定住プロジェクト」は、妊娠・出産・育児の切れ目ない支援で全国モデルとなりましたが、これを保育、そして教育に繋いでいき、小学校5年制・中学校5年制をモデルとしてやりたいと考えています。年長児を小学1年生とし、モデル事業により本市が結果を残したいと考えています。この取組が、“子どもの貧困の連鎖”を断つひとつの有効な手法とも思っており、是非進めたいと考えています。

「生涯現役プロジェクト」は、団塊の世代の方が既にリタイアされ、一挙に高齢化が進んでいます。高齢化率については、名張は全国の倍のスピードで進む見通しとなっており、“名張ばりばり現役プロジェクト”として、がん検診・特定健診の更なる促進を考えています。それから、“健康なばり21計画”の取組では、15地域別にワールドカフェを実施し、きめ細かな地域別計画を策定しました。また、生涯学習や生涯スポーツの振興による生きがいづくり、ボランティア活動の推進、まちづくりの活性化など、これらの取組で健康寿命を延ばしていきたいと考えています。そのためには、よりきめの細やかな対応が必要であり、協会けんぽ、共済組合とデータ活用の面で連携を図り、糖尿病などの生活習慣病の予防、運動指導・食事指導や健康づくりの取組推進、また、“まちの保健室”が有効に機能することで、国保の伸びが抑制されたり、市民の方の生活の質が高まっていると感じているところです。

(教育委員)

今回の総合計画では、キーワードとして“元気”をすごく感じました。健康にもとづく“元気”というお話を聞き、嬉しく感じました。また、教養を伴ったの元気、豊かな心の教育もできるように、教育委員会だけでなく、地域も一緒に子育てをする、それを具体的に必要性が出てきています。子どもの貧困は、家庭だけでは解消出来ない色々な問題があり、その辺りも含めて進めていく必要があると感じています。

(議長)

色々な事業展開が可能となったのは、地域づくりを十数年間やってきたのがポイントで、住民自治の熟度が高まり、ソーシャルキャピタルと呼ばれる土台があるわけです。限られた予算の中で実績を残していることから、塩崎厚生労働大臣も名張に来られましたが、その土台が、子育てや健康づくりにも生かされていると思います。今後は、住み慣れた地域で、高齢者になっても生きがいのある生活が叶えられる社会、そのような地域包括ケアシステムの構築が重要になってまいります。

(教育長)

地域の担い手の方が大変高齢化しており、次の世代がどうなっていくか若干の不安があります。持続可能なものにしていくには人を育てる必要があります、この点が大きな課題でもあり、人づくりやまちづくりに繋げていく取組が問われていると感じております。健康寿命がどんどん延びています

が、更に若者定着においては、子育て・教育へのシフト変更が必要であり、これからの20年先・30年先を考えた時には、これまで積み上げてきたものが継続していけるような体制にしていくことが大事と思っております。

(教育委員)

「生産年齢人口が老年人口を支えていく」とお話しされていましたが、逆転の発想ができるのではないかと思います。経済の活性化を裏側から支えるのは、老年人口と思っています。異なる世代の「知」・「知識」の交換、世代に繋げていく観点から、3つのプロジェクトは独立したものではなく、非常に関連するものと思っております。今まで培われてきたものを新たな世代に伝えていき、そこで実際の経済活性に結びつくような知恵を与えていくという場が必要ではないかと思えました。悲観的な観点から物事を見ているかもしれませんが、発想を逆転すれば、年齢者が新たな社会を作っていくにあたり大きく貢献されると思えました。

(議長)

おっしゃる通りで、2025年問題というのがあります。2025年は、団塊の世代の方が75歳となり、後期高齢者になる年代です。2040年、団塊の世代の方が90歳になります。この15年間で日本の800万人という分厚い皮が剥がれてしまいます。この間に、生産年齢人口も減少してしまうと日本の将来はもうないわけです。現在、社会保障費の約80%が、年金、医療費の半分、介護に使われています。ところが、子ども・子育ては4%程度しかありません。子どもの数を増やしている国では、社会保障費の約10%を子ども・子育てに充てています。そのような方向にシフトせざるを得ないわけです。社会保障制度を持続あるものにしていくには、子ども・子育てに高齢者が関わっていただく、また、高齢者福祉の面では病院や施設から在宅へ、家族だけでなく社会全体で支える、そのような体制整備が非常に重要となります。

おっしゃる通り、後継者をつくっていくことが重要で、特に男性の地域デビューをいかに推進していくかがポイントになります。

それでは、次の事項について、事務局より説明をお願いします。

2. 名張市教育振興基本計画 第二次名張市子ども教育ビジョン(素案)について (資料2)

※教育委員会 教育総務室より資料説明

(議長)

説明は以上ですが、ご質問等ございますか。

(教育長)

補足ですが、今回の第二次子ども教育ビジョンは、今後、少子高齢化が進む中、いかに若者世代を名張に定着させていくかという中で、子どもたちに名張の良さをしっかりと伝えるとともに、途切れのない支援が必要と考えております。また、子どもたちが本当に社会で活躍できる、そのような人材を育成していくために、学校を中心とし、保護者・地域が一体となって学校運営にも関わりを持ってもらう、また、学校任せではなく、自分たちのできるところは自分たちもやる、そこにまた地域の方も生きがいを感じてもらい、喜びを感じてもらい、相乗効果を図りたいと考えています。

あわせて、今後の生涯学習も含めた中で、センター的なものを学校の適正配置に合わせてやっていく必要があると考えております。また、教育センターは学校とタイアップし、特別支援教育の様々な支援を要する子どもたちをはじめ、子ども・教職員による活用が大事であり、その機能発揮が非常に大事と思っております。

(議長)

不登校の子どもたちを対象としたフリースクールのような取組は考えていないのですか。

(事務局)

国では、夜間中学、フリースクールと言っていますが、外へ出ていく、あるいは学び直す・学び続けるシステムづくりが必要と考えています。現在、適応指導教室を実施しており効果をあげていますが、高校進学でまた引き引き籠ってしまう事象もあります。義務教育の間は市でしっかりサポートしていますが、それ以降は分からないではいけないと思いますので、将来的には、教育センターが核となって取り組んでいく、また場合によっては、1か所ではなく、学校や公民館を活用し、いつでも子どもたちの学ぶ姿勢やそれを受け止める体制の構築が求められると考えています。

(議長)

課題は人材で、そういうことに理解や意欲のある、例えば退職された方をお願いしていく必要があるかもしれない。

(教育委員長)

人員の確保には、ある程度の費用をかけていただく必要があります。

(議長)

厚生労働省や文部科学省、県の予算で、活用できるものがあれば活用すれば良いと思います。

(教育長)

中学校までの不登校もそうですが、高校の中途退学のフォローも必要と感じています。

県として本気でやる気があるのかどうか、全国レベルでの動きとは関係なく、実態を踏まえ先を見据えて、三重県独自でも実施するという本気度が大切だと県の会議では意見をしています。

(議長)

学力アップも大事だが、この分野も大切だと思います。教育委員会において、具体の施策や事業を色々と検討いただいたらと思います。

(教育委員長)

小中一貫教育については、前向きに進めていこうと考えているのでしょうか。

(議長)

小学校5年制・中学校5年制を考えています。

(教育委員長)

小中一貫教育の実施では、一体型と連携型のタイプがあります。つつじが丘では、同じ住宅地内で上手く連携していけますが、他の地域では中学校が核となり、各小学校がまとまっていくという連携型が主になると思っています。いかに上手く小中連携を組み立てるか、保護者や地域の方の意識も重要であることから、相当な体力と時間が必要と思っています。市長からもご支援いただき、前へ進めていきたいと思っています。

(教育委員)

子どもの精神発達において、自己判断ができるようになる4年と5年の間が区切りになると感じています。

(教育長)

ここ数年、全国学力・学習状況調査の中学校の成績が良いですが、これは、落ち着いた中学校生活を過ごしていることが大きな前提となります。中学校が核となり小学校を上手く束ねながら、異学年交流も含め実施することが大切と考えています。

授業中に走り回るなど、現在の小学1年生・2年生において、学習期日や生活習慣の面などで落ち着かない状態が続いたりしております。幼稚園・保育所の段階では校区がなく、就学までの指導がそれぞれで行われていることから、小学校入学後にしようと思っても子どもたちはなかなか馴染めません。そのため、プレ小学校というかたちで5歳児を受け入れ、態勢や習慣、規律をその段階で一定確保することで、小学1年生の段階できちんと学習活動が充実していけると考えております。

また、小学校の学力・学習状況調査結果も、小学1年生からの積み上げが出てくると思います。市が進めようとしています小学校5年制・中学校5年制の小中一貫教育は、理にかなった良いものと思っておりますが、保護者・市民の皆さんに理解してもらいながら、どのように進めるかが一番大きな課題であると感じています。

(議長)

保護者は、あまり抵抗がないと思っております。文部科学省にも働きかけてみたいと思っております。

続きまして、協議事項の名張市教育大綱(事務局素案)につきまして、事務局より説明をお願いします。

○協議事項

1. 名張市教育大綱(事務局素案)について (資料3)

※企画財政部 総合企画政策室より資料説明

(議長)

説明は以上ですが、本件について何かご意見・ご質問はございませんか。

具体的内容は教育ビジョンになると思っておりますが、県や他の自治体の大綱は、構成や内容量など同様ですか。

(事務局)

県はもう少し具体の計画を入れた大綱となっております。

(教育委員)

最終ページの「6 大綱(基本方針)」の1～5の主体について、「どこに」「だれが」ということが混乱してしまいます。統一感がなく、大綱としてはいかがなものかと思っております。

(教育長)

最終ページについては、「新・理想郷プラン」の未来像である「豊かな自然と文化に包まれて誰もが元気で幸せに暮らせるまち 名張」を入れることで、現在の5項目の表記でも良いのかなと思っております。

(教育委員)

「6 基本方針」について、1は生涯学習の面、2は文化関係、3は道徳・スポーツ関係、4は学校教育など、ジャンル分けして位置付けされていることは理解します。

教育長のご意見のように、「6 基本方針」に進めていく方向を付け加えることで、現状の表記でも5年後、10年後の姿というイメージが伝わるのではないかと思います。

(教育委員長)

最終ページの表記は、「6 大綱 (基本方針)」ではなく、「6 基本方針」が適当ではないでしょうか。また、「5 位置付け」が良いのではないのでしょうか。

(議長)

「5 大綱の位置づけ」は「5 位置付け」に、「6 大綱 (基本方針)」は「6 基本方針」に修正してください。

また、「6 基本方針」の各項目の表現は、現状や目標を示していると誤って捉えられる恐れがあることから、目指すべき姿と理解されるように整えてください。

(教育長)

「6 基本方針」については、教育委員会としても企画財政部と協議し、次回の時に再提案させていただきたいと思います。

○その他

※次回開催について、後日ご案内する旨事務局より説明する。

(議長)

長時間ありがとうございました。これで、第2回目の教育会議を終了いたします。